

平成 26 年度（福）ふじみ野福祉社会事業報告

法人理念

・利用者・家族・職員の 3 つの笑顔を大切に地域に根ざした施設づくり

・利用者の尊厳ある生活を守り継続する施設づくり「生存」から「生活」へ

運営方針

- ・ 制約をなくし、利用者の自己決定の尊重をサービス提供の視点とする
- ・ 高齢者の地域生活を支える拠点を目指す
- ・ 小中学校や地域の行事を通じて地域の人々と交流を図る
- ・ 第三者のサービス評価を受け、運営の改善に努める

平成 26 年度は富士見市の日常生活圏域が 4 圏域から 5 圏域に再編成され、第 1 圏域を引続きむさしので、第 5 圏域を新規にひだまりの庭むさしので受託をしました。

法人本部においては年間 6 回の理事会・評議員会を開催し様々な議案を提出し審議をしました。

審議した結果、生活課を中心に人材不足が懸念される介護現場での人材確保を目的に市と協力しながら平成 26 年度介護職員初任者研修を開催、28 名の卒業生を送り出し、4 名の職員を採用することができました。

地域課においては在宅生活を継続させるための事業として特に訪問介護が充実した 1 年となりました。また、地域包括支援センターにおいては様々な相談に対応しました。

地域支援課においては、支援センター並びに地域包括支援センターを開設しました。両事業共に地域ニーズの掘り起こしをしながら地域性の把握を特に意識しました。

栄養課においては季節行事の食事の他にも楽しみメニューを提供し、管理課においては 2 施設の事務作業を効率的に行えるよう努力しました。

事業計画に対して残された課題はありましたが、法人本部、各課が下記の事業を実施してきましたのでここに報告します。

法人本部

総合目標及び課題

- ・ 諸事業の執行状況を確認しながら内部統制を実施します。

重点目標及び課題	成果等
(1) 両施設の健全な運営	① 両施設の運営にあたり、理事会・評議員会にて下記の議案の審議をしました。

	理事会	評議員会	監事監査	実施時期	議案
			○	5/21	・平成25年度(福)ふじみ野福祉会事業報告・決算報告に対する監事監査
第1回	○	○		5/28	<ul style="list-style-type: none"> ・(福)ふじみ野福祉会 平成25年度 事業報告及び決算報告 ・(福)ふじみ野福祉会 職員の職務に専念する義務の特例に関する規程 ・(福)ふじみ野福祉会 パートタイマー・非常勤職員等の就業規則一部改正 ・特別養護老人ホームむさしの優先入所指針一部改正 ・地域密着型特別養護老人ホームむさしの優先入所指針一部改正
第2回	○	○		8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・(福)ふじみ野福祉会定款一部改正(公益事業・介護職員初任者研修事業の追加)並びに指定申請書の提出 ・(福)ふじみ野福祉会印章規程一部改正
第3回	○	○		11/5	<ul style="list-style-type: none"> (福)ふじみ野福祉会 第1次補正予算書(案) (福)ふじみ野福祉会 経理規程一部改正(案) (福)ふじみ野福祉会 就業規則一部改正(案) (福)ふじみ野福祉会 給与規程一部改正(案)
第4回	○	○		1/23	<ul style="list-style-type: none"> ・彩の国あんしんセーフティネット事業実施 ・ヘルパーステーションむさしの運営規程一部改正
第5回	○	○		2/16	<ul style="list-style-type: none"> ・建物総合維持管理の入札 ・紙おむつの入札 ・清拭布の入札 ・その他の積立資産取崩
第6回	○	○		3/26	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員処遇改善手当支給 ・平成26年度予算書第2次補正 ・建物維持管理委託入札結果 ・紙おむつ入札結果 ・清拭布入札結果 ・運営規程及び重要事項説明書改正 ・優先入所指針一部改正 ・(福)ふじみ野福祉会定款一部改正(第二種社会福祉事業・生計困難者に対する相談支援事業の追加)並びに第二種社会福祉事業開始届提出 ・(福)ふじみ野福祉会生活困難者に対する相談支援事業実施規程

					<ul style="list-style-type: none"> ・(福)ふじみ野福祉会経理規程一部改正 ・平成 27 年 3 月に定年を迎える職員の定年延長 ・平成 27 年度施設長給料の格付 ・平成 27 年度事業計画並びに予算書
--	--	--	--	--	---

管理課

総合目標及び課題

- ・両施設の事務の効率化及び収支現状を把握し、経営安定に努めます。

重点目標及び課題	成果等
(1) 両施設の事務の効率化	① 職員5名体制となり、月～金曜日について1人はひだまりの庭へ常駐する事が出来ました。本体⇄ひだまり間のやり取りについては以前よりは効率的に処理出来ましたが、無駄や手間も多く、来年度以降の課題となりました。
(2) 会計数値の把握	① 月次報告において売上額を経常利益という形で明確にし、毎月報告及び決裁を取りました。 ② 未収金については決算時及び来年度以降の課題とし、当年度では具体的な取り組みには至りませんでした。
(3) 職員用 HP の有効活用	① 入札資料の作成及び配布については効率的に処理ができました。また、総合維持管理内容や光熱水費(量)の入力等を行うようにしましたが、運用や具体的対策等には結びついていません。
(4) 衣類の名前・ポケットの確認	① 名前を確認してたたみましたが、たまに他のタンスの中に入っている場合があります。
(5) 清掃マニュアルの確認	① 決められた清掃用具を使用しました。 ② 自分の担当以外の所は、守られていないので話し合いで決めるようにしました。 ③ チェック表は記入できました。

委員会

合同研修委員会

重点目標及び課題	成果等						
(1) 職員研修の充実	① 今年度は以下のとおり、内部研修を実施しました。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">月 日</th> <th style="width: 60%;">研修内容</th> <th style="width: 25%;">場 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	月 日	研修内容	場 所			
月 日	研修内容	場 所					

	7月17日 8月21日 9月10日 10月15日	課長・管理者研修（外部講師）	むさしの	
	8月20日 10月22日 11月26日 12月17日	主任・リーダー研修（外部講師）	むさしの	
	4月9日・ 17日・18日・ 23日・25日	白十字排泄研修	むさしの	
	4月14日・1 6日・30日 9月3日	白十字排泄研修	ひだまり	
	4月14日	介護現場のリスクマネジメント（外部講師）	むさしの	
	9月3日 11月19日	手洗い講習会（外部講師）	むさしの ひだまり	
	9月8日	介護倫理と法令遵守研修	ひだまり	
	2月24日	認知症研修（外部講師）	むさしの	
	2月25日 3月24日	入浴事故防止研修	むさしの ひだまり	
	3月12日	褥瘡研修（外部講師）	むさしの	
	3月16日	看取り介護研修	ひだまり	
	3月18日 3月25日	事故防止研修	むさしの ひだまり	
	(2) 初任者研修プログラムの見直し	② 外部研修は埼玉県社協等各職種の研修に多くの職員が参加し、キャリアアップに努めました。		
	(3) 各課・セクションごとの研修	① 入職時の施設長オリエンテーション、管理課オリエンテーション（入職手続き、就業規則等の説明）リハビリ、医務、厨房、防災等初任者としての必要な基礎研修をほぼ実施しました。		
	① 各課内部研修の計画を立てたが、予定とおり実施できない研修もあり、次年度の課題として取り組みます。			

広報委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 広報委員会メンバー間の連携強化	① 担当委員を明確にし、定期的に会議及びメール等を利用し進捗状況確認しながら連携強化に努めました。
(2) むさしのの魅力が伝わる広報誌作り	① 各事業所ごとに行事風景を広報に載せることで、「むさしの」の魅力を伝えるようにしました。

防災委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 防災訓練の実施	① 利用者の生命と身体の安全を最優先に不測の災害に対応するよう毎月計画を立て、消火、避難訓練、緊急に備えた心肺蘇生法をひだまり合同で実施しました。 ② 地域合同防災訓練は、9月28日(日)に不時の災害時に備え、富士見市の職員により富士見市洪水ハザードマップを中心に防災講座を開き、南畑第5町会の皆さん、参加した職員皆真剣に聞き、あらためて自分の地域の状況を把握でき、勉強になりました。
(2) 防災訓練への全職員の参加及び、職員への周知の徹底	① 皆が参加できるよう早めに計画を立て、各課に役割を指示し、直前に声かけをし、担当者の確認、打ち合わせをするようにしました。 ② ひだまりができてからは本体と同じように消火訓練等計画を立てて行い、実施内容によっては合同で行うようにしました。
(3) 被災地ボランティア	① 9月20日(土)4:15集合出発で宮城県東松島市に向かいました。今回は富士見市等職員、南畑第5町会、ふじみ野福祉会職員25名、特別養護老人ホームやもと赤井の里にて交流推進活動、生活支援等を行い、午後は被災地の視察を行い、22:30にむさしのに帰ってきました。密なスケジュールの被災地支援でしたが貴重な体験ができたと多くの感想が寄せられました。

	実施日	訓練内容	参加者
1	4/16	応急訓練 合同(心肺蘇生・AED使用法)	職員 14名
2	5/7	消火訓練(消火器) むさしの	職員・利用者 18名
	5/8	消火訓練(消火器) ひだまり	職員 30名
3	5/11	災害時訓練(停電) ひだまり	職員・利用者 100名

	5/18	災害時訓練（停電） むさしの	職員・利用者 100名
4	6/20	避難訓練（消火・避難・通報） むさしの	職員・利用者 100名
5	7/14	通報訓練（火災報知機・火災通報専用機）	職員 7名 業者 2名
6	9/25	夜間訓練（消火・避難・通報） むさしの	職員・利用者 25名
7	9/28	地域合同防災訓練 （防災講座・富士見市洪水ハザードマップ） むさしの	職員 14名 地域の皆さん 50名
8	11/29	地域防災訓練（消火・避難） ひだまり	職員・地域の皆さん 30名
9	12/17	応急訓練 合同 （心肺蘇生・AED 使用法）	職員 12名
10	1/12	応急訓練 合同 6（心肺蘇生・AED 使用法）	職員 13名
11	2/9	夜間訓練（消火・避難・通報） むさしの	職員・利用者 25名
12	3/20	避難訓練（消火・避難・通報） むさしの	職員・利用者 100名

衛生委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 産業医による指導	① 毎月産業医に来ていただき、衛生委員会を開催し、指導を受けました。
(2) 感染症予防	① うがい、手洗い、マスクの着用を行い、インフルエンザの予防接種を行いました。インフルエンザになった人もいました。
(3) 施設内における感染症対策マニュアルの見直し及び実施	① 衛生委員会の中で、感染症対策について再度話し、対応できるように周知に努めました。

初任者研修事業

重点目標及び課題	成果等
(1) 机上研修・見学実習	① 11月11日～2月19日において26日間、初任者研修を実施しました。 ② 机上研修・見学実習においても講師及び研修・実習場所の調整・確保に苦労しましたが円滑に実施することができました。
(2) 修了評価	① 28人の受講生に修了証を交付することができました。 ② 受講者1人一言の感想において多くの受講者が、ふじみ野福祉会の職員の方がきめ細やかな対応をしてくれたおかげで安心して受講できたとの声がありました。

生活課

総合目標及び課題

- ・丁寧さと安楽さを意識した介護を提供し、事故の予防に努めます。
- ・余暇等のある楽しみのある生活を提供します。

介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 職員同士の連携強化・スキルアップ	<p>① 職員間の協力意識が向上し、フロアの隔たりがない協力体制が築けてきています。次年度も職員間のコミュニケーションを大切にし、連携強化に努めます。</p> <p>② 全体的に業務内容の確認・指摘を実施する機会が少なく、職員によってサービス提供内容に偏りが生じました。職員の意識向上を図り統一したサービス提供ができるよう取り組みます。</p> <p>③ パソコンやメモに頼らず、口頭での引継ぎを努力した結果、昨年と比較し職員間での会話が増えました。</p>
(2) 安全な介護による事故防止	<p>① 情報の共有・共通認識を念頭に取り組みましたが、職員個々で業務判断をしてしまうこともあり、結果、統一した介護が出来ない場面もありました。</p> <p>② 少ない期会ではありましたが実地研修を開催することで技術向上につながりました。そのため次年度も継続的に実地研修の場を設けます。</p>
(3) 事業内容の周知	<p>① 生活課会議・各委員会・職員面接においてで事業計画の確認・周知を行うことにより個人差はありますが、徐々に事業計画等の大切さを周知することができました。</p>
(4) 余暇活動の充実	<p>① 朝のラジオ体操は継続実施できましたが、今年度、計画していた口腔ケア体操は継続実施できませんでした。継続して実施できるように取り組みます。</p> <p>② 短い時間で効果的に余暇活動を実施することにより利用者の多くの笑顔をみることができました。が日常的に実施していくことが課題として残りました。</p>
(5) 接遇	<p>① 近年、継続して掲げている効果もあり、一定水準での接遇が実践できていると感じます。状況によっては接遇意識が行き届かない場面もありましたので、職員同士が指摘をし、どのような状況であっても丁寧な接遇が実践できるように取り組みます。</p>

	② マンツーマンの入浴作業や食事介助中の声掛けは十分にできましたが、時に業務を優先してしまうこともあり、声掛けが不十分な場面もありました。
--	---

(6) 年間諸行事

	行事名	内容	対象者	実施場所
4月	お花見	1階デイサービス前のテラスにてお茶菓子を召し上がりながらお花見を実施。	2、3階利用者	1階 テラス
4/25	春の行事食	昼食時に季節を感じられる食材を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
5/2	端午の節句	手作りの兜を被り写真撮影を実施。	2、3階利用者	各ユニット
5/19	草餅作り	季節に合わせて、草餅作りを楽しむ	2、3階利用者	中央ホール
5/22 ~28	行事食	昼食時に味の釜めしを召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
6/11	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
6/17 ~18	鮎の炭火焼き 行事	鮎の炭火焼きを見学し、昼食時に食し苦節を感じて頂く。	2、3階利用者	各ユニット
7/7	七夕行事	短冊と七夕にちなんだゼリーを作成。	2階利用者	各ユニット
7/7	七夕行事	短冊を作成し、初夏を感じるアイスクリームを召し上がる。	3階利用者	各ユニット
7/26	納涼祭	太鼓やお神輿、職員余興を楽しむ。夕食は屋台風の行事食を召し上がる。	2、3階利用者	施設敷地内
8/8	フロアー 行事	フルーチェを作り、間食時に召し上がる。	3階利用者	中央ホール
8/19	行事食	昼食時に助六弁当を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
8/20	ユニット 行事	アイスクリームに好きなトッピングを行い、間食時に召し上がる。	2階利用者	ゆり ユニット
8/21	ユニット 行事	アイスクリームに好きなトッピングを行い、間食時に召し上がる。	2階利用者	ふじ ユニット
8/22	ユニット 行事	アイスクリームに好きなトッピングを行い、間食時に召し上がる。	2階利用者	きく ユニット
9/4	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
9/8	月見団子作り	中秋の名月に合わせお月見団子を作成。	2、3階利用者	2階中央 ホール
9/13	長寿を祝う会	ご家族にも参加頂き、年寿者のお祝いを行う。昼食は豪華な祝い膳を召し上	2、3階利用者	各階中央 ホール

		がる。		
9/23	おはぎ作り	それぞれの大きさや形のおはぎを作り、間食時に食す。	2、3階利用者	2階中央ホール
10/7	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
10/16 ~17	さんまの炭火焼き行事	旬のさんまを炭火焼きにして、昼食時に召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
10/31	肉まん作り	指先のリハビリを兼ねて実施。間食時にできあがった肉まんを食す。	2、3階利用者	2階ゆりユニット
11/4	行事食	昼食時にのり弁当を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
11/18	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
11/19	鍋行事	昼食時にちゃんこ鍋を召し上がる。	2階ふじ利用者	ふじユニット
11/20	鍋行事	昼食時にキムチ鍋を召し上がる。	2階きく利用者	きくユニット
11/21	鍋行事	昼食時にちゃんこ鍋を召し上がる。	2階ゆり利用者	ゆりユニット
11/24	鍋行事	昼食時に寄せ鍋を召し上がる。	3階さくら利用者	さくらユニット
11/25	鍋行事	昼食時にちゃんこ鍋を召し上がる。	3階もみじ利用者	もみじユニット
11/26	鍋行事	昼食時に寄せ鍋を召し上がる。	3階きり利用者	きりユニット
12/14	もちつき行事	ご家族と共にもちつきの実施・見学を行い昼食時につきたてのお餅を召し上がる。	2、3階利用者	各階中央ホール
12/25	クリスマス	クリスマスにちなんだ豪華な食事を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
1/1 ~ 3	お正月	おせちや雑煮を召し上がる、お正月を感じて頂く。	2、3階利用者	各ユニット
1/10	新年会	ご家族と新年を祝うと共に職員余興やボランティアの催し物を楽しむ。	2、3階利用者	各階中央ホール
2/3	節分行事	皆さんで元気に楽しく豆まきを行う。	2、3階利用者	各階中央ホール
2/24	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット
3/3	ひな祭り行事	ひな壇前で写真撮影を行い、歌やクイズをして楽しむ。	2、3階利用者	各階中央ホール
3/18	行事食	昼食時にお寿司を召し上がる。	2、3階利用者	各ユニット

<p>(3) 薬剤・投薬の適切な管理と指導</p>	<p>③ 定期的・必要時に各セクションと相談し対応できました。</p> <p>④ 相談員と密に連絡を取り情報交換ができるように努めました。</p> <p>① 処方薬の確認は、薬が届いた時点で行い、処方箋や回診時のやり取りの違いに対して、薬剤師や病院と連絡を取り対応することができました。</p> <p>② 臨時に処方された薬は、薬が届き次第対応し間違いのないよう管理することができました。</p> <p>③ 誤薬に関しては、職員同士の確認不足や服薬時一人対応時発生している為、職員の意識の向上が必要です。</p>
<p>(4) 職員への医療教育</p>	<p>① 入職時、短時間ではあるが行うことができましたが、時間・内容に関してはまだまだ不十分です。</p> <p>② 看護職員間では引き継ぎノート・口頭などで職員への統一した指示・指導ができるよう努めました。</p> <p>③ 救急対応など介護職員のニーズは高いが、研修を行うことができませんでした。</p>

相談

重点目標及び課題	成果等																																										
<p>(1) 特養入所の稼働率の安定確保</p>	<p>① 特養の年間平均稼働率は 96.3%となり、稼働率の目標達成には至りませんでした。今年度は入院者が多く入院期間も増加してしまった事が、稼働率の低下となってしまいました。利用者の退所から次入所者までの間の空床を極力少なくするため、事前から家族や関係機関との調整を実施し、スムーズに入所調整は実施できました。退所者は 12 名、入所までの空床期間は 82 日間あり前年度に比べると日数減少しました。しかし、入院者に関しては延べ日数が 793 日間（延べ人数 30 名）と増加してしまいました。結果、空床の日数増加に繋がり、稼働率の低下となりました。</p> <table border="1" data-bbox="518 1590 1390 2016"> <thead> <tr> <th>退所者</th> <th>退所年月日</th> <th>理由</th> <th>入所者</th> <th>入所年月日</th> <th>入所判定委員会</th> <th>空床期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>H26.4.30</td> <td>長期入院</td> <td>1</td> <td>H26.5.9</td> <td>H26.3.14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>H26.5.21</td> <td>長期入院</td> <td>2</td> <td>H26.5.30</td> <td>H26.3.14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>H26.6.8</td> <td>死亡(看取り)</td> <td>3</td> <td>H26.6.13</td> <td>H26.3.14</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>H26.8.5</td> <td>死亡</td> <td>4</td> <td>H26.8.19</td> <td>H26.8.19</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>H26.9.6</td> <td>死亡(看</td> <td>5</td> <td>H26.9.12</td> <td>H26.6.2</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	退所者	退所年月日	理由	入所者	入所年月日	入所判定委員会	空床期間	1	H26.4.30	長期入院	1	H26.5.9	H26.3.14	8	2	H26.5.21	長期入院	2	H26.5.30	H26.3.14	8	3	H26.6.8	死亡(看取り)	3	H26.6.13	H26.3.14	4	4	H26.8.5	死亡	4	H26.8.19	H26.8.19	13	5	H26.9.6	死亡(看	5	H26.9.12	H26.6.2	5
退所者	退所年月日	理由	入所者	入所年月日	入所判定委員会	空床期間																																					
1	H26.4.30	長期入院	1	H26.5.9	H26.3.14	8																																					
2	H26.5.21	長期入院	2	H26.5.30	H26.3.14	8																																					
3	H26.6.8	死亡(看取り)	3	H26.6.13	H26.3.14	4																																					
4	H26.8.5	死亡	4	H26.8.19	H26.8.19	13																																					
5	H26.9.6	死亡(看	5	H26.9.12	H26.6.2	5																																					

		取り)				
6	H26.9.22	死亡	6	H26.10.7	H26.7.11	14
7	H 26.10.20	死亡(看 取り)	7	H 26.10.28	H26.8.8	7
8	H26.11.7	希望退所 (老健)	8	H26.11.6	H26.4.21	1
9	H 26.12.23	死亡	9	H27.1.5	H26.4.21	12
10	H27.1.15	死亡	10	H27.1.21	H26.12.5	5
11	H27.2.21	死亡(看 取り)	11	H27.2.27	H26.9.5	5
12	H27.3.17	退所(在 宅)	12	H27.3.18	H26.10.7	0
退所者総数 12名		入所者総数 12名		空床期間合計 82日		

② 優先入所指針に沿って、毎月1回の入所検討委員会を実施し、待機者の確保に努めています。待機者に関する確保は安定して行っていますが、入院者の空床の調整がつかず、大幅に空床を増やしてしまう結果となりました。新規入所申込者に対する順位付けを行い、委員会内で確定しご本人及びご家族への決定通知にてお知らせも行います。

③ 今年度の入院者の入院日数合計が793日となり、一日平均2.1人・平均入院日数が24日間と昨年度に比べ大幅に増加しました。入院先への面会及び状況把握に努めていますが、入院期間が長期に渡ってしまい退院までの調整が行かなかったことが原因と考えられます。また、一度退院された後も予後が悪くなってしまい再び入院加療が必要となってしまうなど入院日数が増加してしまった一因と考えられます。施設に戻って頂くため、病院やご家族と積極的に調整するも、退院までの支援が長引いてしまい空床が増加しました。

(2) 新規本入所者への迅速な支援

① 入所相談の時点から、ご家族及びご本人に対して重要事項説明書等を用いて施設の特徴等やご家族の不安に対して親身になって説明対応を実施しました。その為、入所時にはご家族が求めていたニーズにも円滑に対処でき、入所までスムーズに取り組みました。また、相談内容に問わず、ご家族やご本人に施設を積極的に見学

	<p>して頂くよう努めた事で、安心して入所できるようにしました。今年度の入所者数は12名となり、空床期間は82日間でした。平均空床期間は6.8日となり目標数値を達成できました。待機期間中にもご家族に連絡をとりコミュニケーションを図った事で、事前準備に時間を要することなく空床期間短縮になりました。</p>												
<p>(3) 利用者の権利擁護としての成年後見制度の活用と支援の実施</p>	<p>① 成年後見制度への支援に関しては、繋げる利用者がいませんでした。1名の対象者がおり、説明実施するも死亡退所となってしまったため、後見制度には至りませんでした。</p> <p>② 入所者に対して、在宅復帰支援を行政機関及び専門職と協働にて、1名の在宅復帰を実施することが出来ました。復帰までの間に本人の希望や現在の身体状況を踏まえ、行政との連携し支援したことにより実現できました。</p>												
<p>(4) 複合的な家族間のスムーズな調整</p>	<p>① 利用者を主体に、希望や状況に合わせ、ご家族と協働にて支援を実施しました。ご家族からの希望や心配事に真摯に対応し、状況によって積極的に話し合いの場を作り、満足を高めていく事に努めています。時には、外出支援の調整や、面会の設定をも積極的に実施し支援を行いました。</p> <p>② 利用者及びご家族からの相談には、丁寧に内容を伺いどのように対処し、生活の安定につなげていくかを説明し、迅速に対応しました。相談内容に関わらず、施設だけの判断にはせずご家族の理解や協力を求めて利用者・ご家族が安心して生活が出来るように支援しました。</p> <p>③ 日頃から、積極的に利用者に対しての状況把握に努め、ご家族に対しても積極的に情報提供に努めました。そのことにより、利用者に対してご家族との考え方に相違がなく、相談内容にもスムーズに取り組みました。対応方針の説明の際、普段から関わりが多くあることで、家族に対しての働きかけに努めました。</p>												
<p>(5) 施設ケアに合ったボランティアの積極的な受け入れの実施</p>	<p>① 今年度、新規のボランティアとして1件の受け入れをしました。定期でのボランティアの皆様には継続して行って頂けるよう、積極的に調整し、また、安心して活動が行って頂けるようボランティア保険に加入しました。</p> <table border="1" data-bbox="518 1814 1356 2011"> <thead> <tr> <th>クラブ名</th> <th>活動回数(回)</th> <th>述べ人数(名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カラオケクラブ</td> <td>12</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>音楽クラブ</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>大正琴クラブ</td> <td>11</td> <td>47</td> </tr> </tbody> </table>	クラブ名	活動回数(回)	述べ人数(名)	カラオケクラブ	12	42	音楽クラブ	14	20	大正琴クラブ	11	47
クラブ名	活動回数(回)	述べ人数(名)											
カラオケクラブ	12	42											
音楽クラブ	14	20											
大正琴クラブ	11	47											

お茶クラブ	13	51
熊ちゃんず	1 (新年会)	8
直利会	4	47
傾聴ボランティア	23	68
ハーフトーンズ	4	26
白百合会	6	24
江戸芸かっぽれ	7	28
明るい社会づくりの会	12	96
生活支援ボランティア	30	30
大井チンドン一座	1 (納涼祭)	15
うづき会 (踊り)	1 (納涼祭)	12
富士見太鼓	2 (納涼祭・新年会)	25
ハッピー演歌塾	6	6
合計	147 回	545 名

② 毎回のボランティア活動の際に、活動者の方に活動記録の記入を実施して次回の活動の際の課題や変更点を双方で見つけ、回を重ねることにより良いボランティア活動が出来るように努めました。ボランティアの皆さんからの生の声を今後の活動の反省と課題に役立てました。3 月期には、「ボランティア感謝の集い」を施設内で開催し、皆様をお招きして親睦を深めました。23 クラブ・81 名の参加がありました。

(6) 短期入所生活介護
の稼働率の向上と
安定確保

① 短期入所生活介護の年間平均稼働率は 92.4%と目標の達成には至りませんでした。常に新規利用者の受入れを積極的に実施し、居宅介護支援事業所に対してむさしの便りなどで空床情報の提供を行いました。しかし、定期利用者も日数の増加がなく、新規利用者の定期的な利用とまでには結びつかず、稼働率の減少と考えられます。

月	実人員 (人)	延べ日数 (日)	利用率 (%)
4	33	333	79.3
5	37	382	88.0
6	34	383	91.2
7	33	378	87.1
8	35	412	94.9
9	34	406	96.7

	10	26	344	79.3
	11	31	376	89.5
	12	30	406	93.5
	1	31	412	94.9
	2	32	430	109.7
	3	31	458	105.5
	計	387	4720	
	平均	32	429	92.4

② 緊急的な利用の希望者に関しても積極的に受入れを実施しました。ご家族や居宅介護支援事業所と情報提供を図り、普段からの様子について連絡とり、利用者やご家族にとって有益な利用となるように努めました。そのことで、在宅に戻った際や利用に関して継続的に実施して利用者の維持向上に努めました。

③ 新規利用者の受入れを 38 名実施しました。積極的に緊急の利用に際しても、安心して利用が行えるよう柔軟に対応しました。その結果、新規利用者の増加に繋がったと考えられます。

④ 契約時にも重要事項説明書を用いて親切丁寧に説明し、利用者にあった施設サービスに努めました。介護支援専門員からのケアプランに沿って介護計画書を作成し、利用者のご家族に安心して利用して頂けるように努めました。

リハビリ

重点目標及び課題	成果等
(1) チームケアの質の向上	<p>① リハビリ実施計画書を見直し、現在の動作の状態の確認を行い、必要な動作介助方法を計画書の中に記載し、誰もが確認できるようにしました。</p> <p>② 提案できる介助動作を検討、実施しました。また、介護職員からの報告により、状態変化に伴った介助動作を検討し実施したことにより統一した動作が出来るよう努めました。</p> <p>③ 関わる職員全員が統一できるまでは行えなかったが、利用者個々の動作介助に関心を持ち、繰り返し練習を行いました。その結果、職員が自信を持つ様子が伺えました。。全職員に実施できなかったのは、利用者さんの生活の中で関わらせていただくため、勤務時間等で調整が難しく課題となりました。</p> <p>④ 声を掛けさせてもらった職員は少く、繰り返し練習できた方とできなかった方がいました。</p>

(2) 日常生活の関わり	<p>① 実際に関われたのは食事介助のみで、頻度も少なく全利用者との関わりを持つことが少く、食事介助を学んでいる際の介護職員とのコミュニケーションの方法の課題が残りました。</p> <p>② 移動動作、移乗動作についてはフロアや居室にて多くの利用者の身体状況を把握できました。</p>
--------------	--

委員会

・安全委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) ヒヤリハット報告書と事故報告書作成についての取り組み	<p>① 現存の書式を基に見直しを実施しましたが、書式別の書面作成には至りませんでした。再度、見直しを行い書式別に分類できるように取り組みます。</p> <p>② ①同様に判断基準の分けや整理を行うことができませんでした。各セクションと協議し、速やかに作成・実践ができるように取り組みます。</p>
(2) 転倒・転落事故が多い利用者の方に対するアプローチ	<p>① 転倒・転落が多い方へのアプローチが不十分であり、数多くの対策協議を設けることができず、次年度の課題となりました。</p> <p>② ヒヤリハット内容の整理ができず、対策案を協議することができませんでした。毎月のフロア会議で転倒・転落が多い方への協議を実施することにより、事故予防へのアプローチを行いました。</p>

排泄委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) トイレでの自然排尿・排便への取り組み	<p>① 立位困難な利用者のトイレ誘導について、対象利用者全てには実施する事はできなかったが、一部の利用者には簡易ベッドやポータブルトイレの使用による排泄介助を行い、パットに頼らない排泄支援を行うことができました。</p> <p>② トイレでの排泄を実施する利用者の方のトイレ誘導に関しては、簡易ベッドやポータブルトイレの使用により、複数回の誘導を実践することができました。次年度はより多くの方の自然排泄サポートに取り組みます。</p> <p>③ 臥床時間が長い利用者の方にはオムツ使用者が多く、オムツ外しの取り組みは実践できなかったが、できるだけ利用者の方へ負担にならないパットを選定し使用するよう取り組みました。利用者の不快感を更に軽減し、一人でも多くの方のオムツ外しを目標に掲げ取り組みます。</p>
(2) 職員の技術の向	① 新入職員入職時には、メーカー社員による研修会を開催し、多くの

上	職員が使用方法を学ぶことができました。が、その後の経過観察が疎かになってしまい、排泄介助に苦手意識のある職員への指導が不十分であった為、職員の技術に差ができてしまいました。
---	--

入浴委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者にあった入浴の提供	① 当日の利用者の体調や現状の入浴状態を考慮し、入浴形態の変更等を実施できました。また、職員からの状況報告も多くあり、スムーズな対応ができました。
(2) 感染症対策	① 再周知の効果もあり、入浴中のオーバーフロー（かけ流し）や入浴中の塩素殺菌装置を活用した入浴支援を実施することができました。今後も継続できるように取り組みます。 ② 塩素殺菌装置の希釈液の作成方法を記した資料を作成しましたが、職員によっては確認不足があり、周知方法に課題が残りました。全員が統一して対応できるように周知方法の見直しを行います。入浴物品については新しく交換をしましたが、各利用者の感染予防対策には課題が残ります。次年度の課題として取り組み方法を整理します。
(3) 安全な入浴介助への取り組み（転落事故・転倒事故等の入浴事故防止対策）	① 危険意識を認識してもらうため、そして同じ事故を起こさないためにも研修を通して職員への引継ぎを実践しました。 ② 昨年度より、職員間の連携・声掛け不足による事故を防止する事に関しては、各職員が把握をし、意識をもって対応ができました。新職員に対しての入浴介助の取り組みを継続して周知しました。

食事委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 誤嚥防止マニュアルの周知	① 年間を通して誤嚥防止マニュアル作成に取り組みました。各セクションと何度もディスカッションした結果、施設独自のマニュアルを作り上げることができました。作成したマニュアルを配布し、来年度実施状況を確認し、マニュアルを定着させます。
(2) 嚥下体操の周知・実施	① 職員に周知し、昼食前に実施しましたが、定着させることができませんでした。次年度はきちんと実施できるよう問題点を追及し、改善点を見つけ、実施・定着を目指します。 ② 実施方法の資料を作成しましたが、実施回数が少なく、スムーズな進行ができませんでした。より簡単で分かりやすい資料を模索し取

<p>(3) 食事内容の充実</p>	<p>り組みへのアプローチを行います。</p> <p>① 嗜好調査等で利用者の意見を聞き取り、食事メニューに反映することができました（月1回の寿司提供など）。次年度は、利用者懇談会で聞き取りした食事に関しての意見等も反映させ、さらなる食事内容の充実に努めます。</p>
--------------------	--

整容委員会

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) リネン交換業務の周知</p>	<p>① ベットパット・枕の交換月を把握できていない職員がいたため、把握しやすいようにリネン表に記載をした結果、リネン出しも含めて職員全体が把握できるようになり、忘れずに実施できました。</p>
<p>(2) ユニット内の換気、アルコール消毒の継続</p>	<p>① 感染症流行時期前に、換気・アルコール消毒の実践について連絡をしましたが、周知不足もあり、継続した効果をあげることができませんでした。また、時間の見直しを行うことができなかったため、次年度は周知方法を含めて課題として取り組みます。</p> <p>② 大勢の人が集まる行事後等の消毒・換気については、繰り返し引継ぎをした成果もあり快適な室内空間を確保することができました。</p>
<p>(3) 整容身だしなみを整える</p>	<p>① 起床時以外での整髪・随時の衣類交換は状況によって対応にばらつきがありましたので、次年度は整容への更なる意識付けを図ります。</p>
<p>(4) 居室の整理整頓</p>	<p>① 使用していない衣類やタオル等は、随時、回収・洗濯に出すなどして清潔保持に努めました。未回収の介助物品等が置かれていることもあり、課題が残りました。</p>
<p>(5) 個人用アルコール消毒ボトルの携帯</p>	<p>① 職員に個人用（名前付き）ボトルを配布し、携帯することの意識付けを行いました。個々に携帯し使用している様子はあまり見られませんでした。</p> <p>② 職員全員に携帯有無の確認を行い、1介護・1消毒の実践に向けて継続して取り組みます。</p>
<p>(6) 車椅子清掃・清潔保持</p>	<p>① 車椅子が汚れた際は、個々に掃除を行い、入浴時に拭きあげる等の対応をしました。</p>

身体拘束廃止に向けての検討委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) マニュアル作成	③ 今年度は、言葉による拘束について活動を行いました。全職員対象にアンケート調査を行い、その結果からまず何をすれば良いか検討し、認知症とは何かを学ぶための研修を開催することとなり全職員対象の研修を実施しました。マニュアルの作成は行えませんでした。今年度の活動を基に、次年度は言葉の拘束についてのマニュアル作成を実施します。
(2) 薬剤について知識を高める	① 当施設では薬による拘束は行っていないとの結果により、薬剤については実施しませんでした。

地域課

総合目標及び課題

- ・地域課5事業が連携して総合的な支援を展開します。また、地域の方々が、在宅生活の中で自立につながる行為が1つでも増えるように、生きがいを持ち続けられるように支援します。

デイサービスセンター

重点目標及び課題	成果等																		
(1) 利用率の維持・向上のための取り組み	<p>① 全体稼働率については70.5%と目標の81%を10.5パーセント下回る結果となりました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間稼働日数</td> <td>308日</td> <td>308日</td> <td>延日数 月平均</td> <td>499.1</td> <td>452.5</td> </tr> <tr> <td>年間利用延日数</td> <td>5990日</td> <td>5430日</td> <td>利用率 平均</td> <td>77.8%</td> <td>70.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業所への営業やデイ活動誌、個別外出などを通して実績のアピールを行ないましたが新規獲得が思うようにいかず、27年3月の実人数が50人となり、26年4月の56人と比べると6人減少しました。加えて現存利用者の休みも含めると稼働率の維持には難しい状況でした。デイサービス運営の趨勢は、趣味活動や社会交流、入浴などの主目的に加え、リハビリや中重度者の受け入れ体制の充実が求められています。その点において、利用者やケママネの要望に十分応えられる体制となっておらず、人材や設備体制の強化を、如何に組織として具体的に実現していくかが一つの大きな課題となりました。</p>		25年度	26年度		25年度	26年度	年間稼働日数	308日	308日	延日数 月平均	499.1	452.5	年間利用延日数	5990日	5430日	利用率 平均	77.8%	70.8%
	25年度	26年度		25年度	26年度														
年間稼働日数	308日	308日	延日数 月平均	499.1	452.5														
年間利用延日数	5990日	5430日	利用率 平均	77.8%	70.8%														
(2) 相談援助サービス業務	<p>① 利用者の生活の質の向上に貢献するには、利用者やご家族、ケアマネ、現場との連携が更に必要と考え、以下の取り組みました。</p> <p>② 利用者・ご家族：利用日変更・追加への随時対応、医務処置・身体に関わる情報提供、個別外出提案と実施などによって、支援における質の向上に努め、ニーズに応えました。</p> <p>③ ケママネ：実績や月間活動記録などを通して懸案事項を提示し、具体的な提案を行うことで生活における質の向上に繋げました。</p> <p>④ 現場職員（介護職や看護師）：担当者会議における意見を早急に伝達し、迅速に変更を行なうことで支援における質の向上に努めました。</p>																		
(3) 医療・機能訓練	<p>① 看護師としての確かな医療知識と経験に基づいた健康管理を行い、介護職には医療知識の伝達と指示を通して利用者へ還元できる環境を</p>																		

	<p>築くことを考え、以下の取り組みました。</p> <p>② 皮膚疾患や食事量、排泄状態などにおいて気になることがあれば、相談員に報告し、連絡帳にも具体的に記入して、早期対応に繋がりました。</p> <p>③ 生活リハビリを利用者の自主的取り組みとして実施し、洋裁が得意な利用者にはタオルマット作成、キッチンが得意な利用者には食事の準備や片付けを実施しました。その際、必ず一つ褒めることで役割に対する喜びと更なるやる気を引き出す声掛けを行ないました。</p> <p>④ 介護職の医務機器への不安を減少するため取り扱い研修を実施しました。</p> <p>医療機器研修：水銀血圧計 酸素ポンペ 吸引器</p>
<p>(4) 職員の個々の力が引き出せる職場作り</p>	<p>① 職員個々の力が十分活かしてこそ大きな力となり、職場の活力にもつながると考え、以下の取り組みを行ないました。</p> <p>② 職員個々の視点を大切にしながら、指示もバランス良く織り交ぜて規律のある職場作りを試みました。指示によっては後ろ向きになってしまうことも見られたため職員一人ひとりの特性を理解しながらの実施を考えなくてはなりません。</p> <p>③ 食事形態や排泄・入浴など、自立度に応じた個別支援ができるよう連絡ノートやフロア会議などを活用し情報の共有に努めました。</p> <p>④ 送迎は無事故にて安全運行できました。運行中は常に気が抜けないので、運転手と添乗が一つひとつの確認作業を怠らず継続実施していくことが必要です。</p> <p>⑤ 介護福祉士やケアマネジャーの試験に取り組むことで自らの支援を振り返り、普段の支援を見直す機会となりました。</p> <p>⑥ ヒヤリハット報告をすることに戸惑いを感じる職員もいる中、報告することも個々の能力と評価し、報告を活かす環境作りが課題です。危険予知内部研修もありデイ職員の参加者は多く、学んだことが現場に活かされました。</p>
<p>(5) 選択できるアクティビティと年間行事計画</p>	<p>① デイサービスの特長の一つであるアクティビティの充実を図ることが利用者の満足度の向上につながると考え、以下の取り組みました。</p> <p>② 参加する意義のみならず、アクティビティへ参加しないことも自己決定として尊重しています。参加しないだけで終わるのではなく、代替案も含めて幅のある提案が出来るよう準備をしていくことも必要と考えています。</p> <p>③ テーブルで気軽に何回でも楽しめるアクティビティを提案しました。左右にオレンジと青の小ボールを手元で振り分けるムービングボールは手や頭の運動となり人気となりました。</p>

④ 1人から数人の利用者と出掛けたい所に赴く個別外出を始めました。不定期ではありますが出来るだけ希望に沿い、ゆったりとした、余裕のある時間を設けました。反面、思うように実行できず、利用者にも試みが浸透していなかった面もあるので、利用者に予め告知することで計画的に実行できるよう運営を改善し、更なる実行力の向上を目指します。

◎26年度個別外出実績

- ・イオン・華屋与平・眼鏡屋・100円ショップ・JA アグレッッシュ
- ・ドライブ

◎26度ボランティア実績

※26年度ボランティア 個人・団体数 16 (25年度 19)
年間延べ人数 347人 (25年度 435人)

去年までは単回のボランティアであった団体（ほがらか歌仲間・ハッピーガールズ・笑いヨガ）が2～3ヵ月ごとの定期ボランティアとなりました。利用者とも顔なじみとなり、声の掛け合いも生まれ、より充実した運営が出来ました。

新規として、富士見市社協のボランティア募集誌で「大人の折り紙」を主催する先生をご紹介頂きました。今後は、見るだけではなく、自ら手や足を動かす参加型ボランティアの幅を更に開拓し、自宅でも継続的に取り組める活動へと繋げていきたいと考えています。

◎26度季節行事実績

季節感を大事にした行事を実施し、皆様で楽しみました。

来年度は、新たな行事を取り入れ、新鮮味のある行事運営が出来るよう工夫を凝らします。

月	行事	内容
4	お花見	満開時には、びん沼川沿いにて花見をしました。
5	藤の花観賞	富士見市役所の藤棚やチューリップ畑を観賞し、色とりどりの花を楽しみました。
6	外食行事 かっぱ寿司	外食リクエストが多かった回転寿司を堪能し、帰りには、JA やお菓子屋での買い物も楽しみました。
7	シネマ上映	昭和31年の映画「今どきの嫁」を上映

		し、昔の思い出話に花が咲きました。
8	かき氷	つぶあんやバニラアイスなどをトッピングしたイチゴ・メロン・レモンのかき氷を提供し、夏の涼を感じました。
9	長寿を祝う会	ボランティア演芸（ハーモニカ・うづき会・ハッピーガールズ・白百合の会・オカリナ）を楽しみ、節目の利用者にはプレゼントを贈呈しました。
10 11	日帰り旅行	川越博物館・喜多院・小江戸蔵里などに赴き、見学や買い物を楽しみました。
12	クリスマス会	ボランティア演芸（朗らか歌仲間・オカリナ・ハッピー演歌塾・ハーモニカ）を楽しみ、クリスマスプレゼントを贈呈しました。
12月 14日	もちつき会	利用者17名・家族18名参加。 3回餅をつく。きな粉・あんこ・のり・にて提供する。余興にてカラオケやビンゴを楽しみました。
1	鍋料理 初詣	職員と利用者が協力して作った鍋料理を味わいました。 (みぞれ・鶏肉団子・すいとん・餃子) 川越氷川神社に初詣に出掛けました。1人ひとりお賽銭を入れ、今年の願いを祈りました
2	節分	豆まきやゲームレクを通して1年の災厄をはらいました。
3	外出行事 パサール三芳	利用者のリクエストが多かった関越道・三芳パーキング内を散策しました。お寿司などの食事をした後、地の野菜や人気のお土産を購入しました。

ヘルパーステーション

重点目標及び課題	成果等																																																																														
<p>(1) 稼働率の維持・向上のための取り組み</p>	<p>① 3月末時点での月の延べ回数が平均 248 日となり、年度末時点で月 220 回の目標を達成することができました。利用者の入院・SS 利用の繰り返し、終了等によるキャンセルが年間で 197 回ありました。居宅事業所の協力により新規利用者が増えたことで最終的に目標達成が出来ました。</p>  <table border="1"> <caption>Monthly Staff, New Users, and Cancellations</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>実員</th> <th>新規</th> <th>中止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>31</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>5月</td><td>33</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>6月</td><td>32</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>7月</td><td>32</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>8月</td><td>34</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>9月</td><td>35</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>10月</td><td>37</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>11月</td><td>36</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>12月</td><td>35</td><td>0</td><td>3</td></tr> <tr><td>1月</td><td>36</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr><td>2月</td><td>35</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr><td>3月</td><td>42</td><td>5</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <caption>Monthly Cumulative Service Counts (延べ回数)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>延べ回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>220</td></tr> <tr><td>5月</td><td>240</td></tr> <tr><td>6月</td><td>225</td></tr> <tr><td>7月</td><td>250</td></tr> <tr><td>8月</td><td>225</td></tr> <tr><td>9月</td><td>250</td></tr> <tr><td>10月</td><td>265</td></tr> <tr><td>11月</td><td>240</td></tr> <tr><td>12月</td><td>275</td></tr> <tr><td>1月</td><td>250</td></tr> <tr><td>2月</td><td>230</td></tr> <tr><td>3月</td><td>295</td></tr> </tbody> </table> <p>② 毎月、実績報告時にむさしの便りの配布を実施し、昨年度実績のなかった 4ヶ所の事業所から新規の紹介があり実績に繋がりました。</p> <p>③ 複数の職員で訪問を行なっている場合は同一内容のサービスを提供出来ているか確認すると共に、改善点や工夫している事などをお互いに話し合い、情報共有を行ないました。</p> <p>④ 利用者へ感謝の気持ちが伝わるように職員で協力し合いながら手作り手作り作業を行ない、配布しました。</p>	月	実員	新規	中止	4月	31	3	1	5月	33	2	1	6月	32	0	1	7月	32	1	1	8月	34	2	1	9月	35	3	1	10月	37	2	1	11月	36	0	0	12月	35	0	3	1月	36	4	2	2月	35	4	2	3月	42	5	3	月	延べ回数	4月	220	5月	240	6月	225	7月	250	8月	225	9月	250	10月	265	11月	240	12月	275	1月	250	2月	230	3月	295
月	実員	新規	中止																																																																												
4月	31	3	1																																																																												
5月	33	2	1																																																																												
6月	32	0	1																																																																												
7月	32	1	1																																																																												
8月	34	2	1																																																																												
9月	35	3	1																																																																												
10月	37	2	1																																																																												
11月	36	0	0																																																																												
12月	35	0	3																																																																												
1月	36	4	2																																																																												
2月	35	4	2																																																																												
3月	42	5	3																																																																												
月	延べ回数																																																																														
4月	220																																																																														
5月	240																																																																														
6月	225																																																																														
7月	250																																																																														
8月	225																																																																														
9月	250																																																																														
10月	265																																																																														
11月	240																																																																														
12月	275																																																																														
1月	250																																																																														
2月	230																																																																														
3月	295																																																																														
<p>(2) 苦情・相談対応</p>	<p>① 利用者宅へ訪問した際にサービス内容や接遇に不満がないか等定期</p>																																																																														

<p>(3) 職員の資質向上の取り組み</p>	<p>的に確認し些細な事も職員間で話し合い、迅速な対応に努めました。結果、大きな苦情へ繋がったケースは1度もありませんでした。</p> <p>② 利用者・家族・CM からの連絡・相談について全職員で内容を周知し、検討、実施しました。利用者からの相談に関しては必要時に家族やCMに報告を行ないました。</p> <p>① 月1回のヘルパー会議の際には課題のある利用者への処遇について話し合いや今後の対策やそれに伴う技術の勉強会を行ないました。また空き時間で移乗介助などの身体介護の練習を実施しました。</p> <p>② 外部研修は全員1回ずつ、内部研修は職員によって出席回数に偏りがあったので次年度は出来る限り参加出来るように努めます。</p> <p>③ ケアプランの内容は全員把握する事が出来ましたが、訪問介護における介護保険制度についての理解度は十分ではありませんでした。次年度は訪問介護サービスについてしっかり理解出来るように勉強会を行ないます。</p> <p>④ 傾聴・共感を基本に行なうと共に利用者へ与える印象を大切に笑顔を絶やさず、接することが出来ました。また個々の利用者の考え方に合わせた個別対応を行なうことが出来ました。</p> <p>⑤ 利用者の出来る・出来ないことをしっかり見極めてサービスに入り、出来るけどやらない事などはやる気が起きるように時間をかけて声掛けを行ないその結果、出来るようになった利用者もいました。</p> <p>⑥ 実施記録・日誌・申し送りノートを読むことにより、他職員の提供しているサービス内容や対応方法等を学ぶことが出来ました。またチームワークが良い為、お互いに遠慮なく相談や身体介護の練習等を空いた時間で行ないました。</p>
<p>(4) リスクマネジメントの重要性</p>	<p>① 緊急の対応については各職員が把握することが出来ました。また急変や容態の悪化が見込まれる利用者についてはCM等にこまめに連絡し、対応方法の確認を行ない、常に職員に周知しました。</p> <p>② ヘルパーが判断しても差し支えない簡易な内容については事後報告で受けていますが、ヘルパー個人で判断出来ない内容については事業所に必ず連絡・指示を仰いでもらいました。</p> <p>③ 事前に予想されるリスクに関して、指示書・申し送りノートに記載し、担当する職員が把握しているか確認を行なう事が出来ました。物損は数回ありましたが、身体に関する事故はありませんでした。</p>

居宅介護支援事業

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持・向上のための取り組み	<p>① 年間平均プラン作成率は 84.9%と目標の88%を下回る結果となりました。要因としては、4月から6月までの作成率が70%台で推移したことがあげられます。4月に職員の入退職があり、新規職員に引き継ぎを行いながら、事業所枠の上限に近づけるように、努めましたが、新規受け入れの調整が充分ではなかったと反省しています。</p> <p>② 10月の作成率について、9月に退職したCMからのケースを残りのCMに振り分けた結果として、90%を超える作成率となりました。10月以降は、休止者の動向を確認しながら調整しましたが、休止者の入退院のタイミングと新規の紹介を調整することがうまくいかないこともありました。</p> <p>③ 26年度より富士見市の地域包括支援センターが5圏域になり、紹介があれば積極的に受け入れるように努めました。主に地域包括支援センターむさしのからの紹介が多く、第3圏域担当のえぶりわんNisiより2件受け入れ行いましたが、既存利用者の要介護から要支援に区分変更した結果の委託であったため、新規での紹介・受け入れはありませんでした。</p>
(2) 事業所内の連携	<p>① 利用者・家族・介護サービス事業所からの相談・連絡について緊急性の高いものや、即時対応依頼の内容については、担当以外の職員で対応することができました。担当が不在ということで各方面に不利益が出ないように努めました。</p> <p>② 毎月の会議で各ケースの近況を報告し、動きがありそうなケースについては全職員がある程度把握できるように努めました。公休等で担当が不在の際の相談内容として、介護サービスの利用の変更や追加、確認などのケースが多いため、場合によっては公休の職員に確認をし、対応することができました。</p> <p>③ 26年度より、当日の業務内容を記録し、振り返りが可能な業務日誌を作成、回覧することができました。</p>
(3) 相談・苦情の援助体制	<p>① 利用者・家族からの相談・苦情については、延滞することが問題を複雑・困難にしてしまうことと考え、迅速に対応することを第一に職員全体で意識することに努めました。</p> <p>② 他事業所（介護サービス事業所）についての苦情・相談は、支援経過・専用の書式に残し、自事業所については、法人全体の苦情受付簿に記録として残しました。</p>

<p>(4) 従業員の育成</p>	<p>① 新任 CM への教育については、明確な教育体制で指導することができず、OJT の中でバイザー・バイジーが見て・感じた・疑問に思ったこと等をその場での口答で指導することが中心になってしまいました。振り返りの確認が不十分であったことが、後々の業務で分かった事例がありました。</p> <p>② 新任 CM の一連のケアマネジメントについては、最低 1 回は一通りの業務を確認しサポートすることができました。</p> <p>③ 各自出席したいと思う研修があれば、お互いが出席しやすい雰囲気を作ることができ、最低 1 回は全職員が研修に出席することができました。</p>
<p>(5) 在宅生活を支えるための支援</p>	<p>① 初回アセスメントでの課題抽出は、現状での ADL や IADL の表面部分に目を向けることが中心になってしまい、その奥に潜んでいる課題を抽出することについてはまだまだ不十分でした。</p> <p>② 必要なサービスの調整は利用者・家族の意向を取り入れ、必要に応じてインフォーマルなサービスも取り入れることができました。しかし、サービス利用で完結してしまったケースもあり、自立してできることを増やす計画書を意識して作成することは不十分でした。</p> <p>③ 自立支援型ケアプランの内部研修を 7 月に行い、多少の意識づけを行いました。定期的に行うことができませんでした。</p> <p>④ ケアプランの目標・利用状況のモニタリングについては、各サービス事業所の活動報告書等に目を通すだけになることが多いのが現状でした。今後は月 1 回、サービス事業所へ電話か訪問する機会を作ることも必要でした。</p>

地域包括支援センター

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 総合相談・支援事業</p>	<p>① 広域性（他の包括 4 圏域分合計の面積相当）と、多様な地域特性（農村地域、駅周辺の集合住宅地域、両者の混在地域、住宅密集地域等）がある第 1 圏域を担当するセンターとして、より身近で安心して相談できる機関として、エリア全域へ広く周知活動を継続しました。</p> <p>② 地域ケア会議は、3 回開催。医師、各町会長、民生委員等から生の声を聴き個別事例への反映や、地域課題の把握を意識し、地域への支援とネットワークの構築に努めました。</p> <p>③ 認知症サポーター講座は、2 回実施し 38 名の参加があり、認知症への早期発見、早期対応への普及啓発を行いました。</p> <p>④ 介護者教室は、7 回実施し 214 名の参加がありました。平成 26</p>

年度で3年目の南畑地区社会福祉協議会との連携では、全5町会を回り、地域の要望を肌でつかめるよう努めました。

- ⑤ 出前相談会では、当センターが担当圏域の端に位置しているため、地域へ出向くことを念頭に、5催事、7日間開催しました。相談はもとより、血圧測定等は329名実施し、健康意識の啓発も行いました。
- ⑥ 介護予防講座を含む出前講座は、各地域からの依頼も増え、12回実施、643名の参加を得ました。関係機関や地域活動ボランティアとも連携が深まり相談支援に繋がりました。
- ⑦ 介護者サロンは11回参加。初年度のため介護者参加がないという開催者からの要望で、介護者教室「知っておきたい認知症の基本」を開催し、周知と定着化に協力しました。

実施項目	実施回数	実施内容
地域ケア会議	年3回開催	6月、11月、1月
情報・意見交換会 他機関会議出席等	年24回実施	5月 南畑・水谷民生委員協議会 5月、11月 南畑地区社会福祉協議会 6月～9月 勝瀬 de 縁日実行委員会 6月～8月 ふれあいサロンミニサミット世話人会・開催日 6月、10月、2月 成年後見実務者会 9月 勝瀬民生委員協議会 11月、12月、1月、3月 ふしみ野文化祭実行委員会 12月 南畑公民館利用者の会 1月 窓陽合同会議 1月 医療と包括連携会議 1月 南畑新春交流会 2月、3月 南畑ふるさと祭実行委員会
認知症サポーター 養成講座	年2回実施	10月 羽沢ひまわり会（22名） 12月 南畑第4町会（16名）

介護者教室	年7回開催 214名の参加 *「健康講座」 を南畑地区社協と連携開催	11月 「低栄養と嚥下について」(44名) 12月 「認知症の理解」(28名) 1月～2月 「動いてのばして腰痛予防」 南畑第2町会(33名) 南畑第1町会(23名) 南畑第3町会(20名) 南畑第5町会(46名) 南畑第4町会(20名)
-------	---	--

実施項目	実施回数	実施内容
出前講座 (介護予防講座)	年12回実施 643名参加 (内介護予防講座5回実施) [内容] 介護予防 介護保険制度 地域包括の話 認知症の予防 消費者被害 交通安全 季節の健康等	4月 ふれあいサロンひろば(渡戸) 5月 勝瀬地区社協総会 6月 羽沢2丁目サロン 渡戸第2ふれあいサロン 勝瀬地区社協生活部会 8月 渡戸喜楽会 9月 渡戸東地区敬老会 11月 南畑第5町会 渡戸ふれあいサロン 12月 南畑第4町会 2月 羽沢丁目ふれあいサロン 3月 ふじみ野ふれあいサロン
出前相談会	年7日間実施	4月 菜の花フェスタ(1日) 9月 勝瀬 de 縁日(1日) 10月 富士見ふるさと祭り(1日) 3月 ふじみ野文化祭(2日) 南畑ふるさとまつり(2日)

(2) 介護予防事業対象者に対する介護予防マネジメント

① 自プラン作成 447、委託プラン 406 となりました。3月に人事異動があり、自プランから委託プランへと移行し委託プランが増加しました。

	介護予防支援利用者 ()内は前年度比																	
	介護予防支援	自プラン	委託	合計														
	年間延べ人数	447(+32)	406 (+86)	853 (+118)人														
	月平均実人員	37.2 (+2.7)	33.8(+7.2)	70.9(+9.7)人														
(3) 権利擁護業務	<p>② 二次予防事業対象者の把握・支援の二次予防事業参加者は、昨年度に比べ、飛躍的に伸びました。チェックリスト実施5名、アセスメント実施8名、評価実施6名となりました。</p> <p>① 相談(虐待)件数(述べ)は123件。前年度末の相談(虐待)件数(述べ)は192件、相談件数総数は減少傾向です。5月には、コアメンバー会議を1件開催。長年の継続ケースが多く、現在まで継続して対応を実施。居宅介護支援事業所が対応している際には、定期的な報告を受けながら、助言などを実施しました。今後、独居もしくは高齢者世帯が増加していくことや、核家族化の進行により、家族介護負担の増大が想定されます。センターの活動を通じ、早期発見・対応を目指します。</p> <p>② 消費者被害は相談(消費者被害)件数(述べ)14件。前年度末の相談(消費者被害)件数(述べ)37件であるため、相談件数総数は減少傾向にあります。各サロンや出前講座、介護予防講座、介護者教室などでの啓発活動を継続実施。出前講座などで聴取した際には、不審な電話や訪問が見受けられ、今後も啓発活動は必要と思います。</p> <p>③ 成年後見制度の相談件数(述べ)10件。前年度は相談件数(述べ)29件。前年度より相談自体は減少傾向にあります。これは富士見市社会福祉協議会に成年後見センターが設置されたことも影響していると考えられます。今後も相談窓口として対応しつつ、今後は富士見市社会福祉協議会との連携に努めます。</p>																	
	権利擁護に関わる相談																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実人数</th> <th>延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成年後見</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>消費者被害</td> <td>5</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>虐待</td> <td>17</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>36</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table>			区分	実人数	延人数	成年後見	5	10	消費者被害	5	14	虐待	17	123	計	36	147
	区分	実人数	延人数															
成年後見	5	10																
消費者被害	5	14																
虐待	17	123																
計	36	147																
<p>(4) 包括的・継続的マネジメント事業</p> <p>① ケアマネ研修会は虐待について開催し57名、事例検討会議は1回開催し52名の参加を得ました。</p>																		

	ケアマネジャー研修会	1回開催 5月	「ケアネとしておさえておきたい高齢者虐待」	
	ケアマネ事例検討会議	1回開催 7月	「特発性正常圧水頭症の利用者について」	
居宅介護支援事業所への紹介斡旋				
	居宅介護支援事業所	要介護・要支援	前年度	前年度比
	支援センターむさしの	38	22	+16
	他事業所（17事業所）	59	60	-1
	計19事業所	97	82	+15
(5) 地域への貢献	<p>① 地域行事への参加は、南畑町会や地区社協からの依頼を主に16回参加協力しました。被災地訪問では、地域参加者と共有する時間や体験を持ち、災害への地域結束の要となるよう施設職員として意義あるものとなりました。</p>			
	地域行事への協力	要請に応じ 随時対応	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、勝瀬 de 縁日、敬老会、運動会、祭り、グランドゴルフ大会、環境美化運動、被災地訪問等 	
(6) 地域ニーズの掘り起こし	<p>① 第1圏域の広域性から、地域への周知や認知度を上げることを念頭にしてきました。圏域内の地域特性から地域ケア会議では、3地域の個別事例を通しての地域課題を把握し、地域協力者と共有認識をもっていくというステップは昇れました。</p>			
(7) その他	<p>① 平成27年度の事業実施に向け包括職員1名を加配し専門性の研鑽のため研修等に参加しました。平成27年度は、認知症当事者や家族の尊厳の確保と、支援を通じた地域づくりへ具体的に取り組みを始めます。</p>			

平成 26 年度 高齢者あんしん相談センターむさしの活動実績一覧表

総合相談支援	総合相談	訪問	652 件
		電話	1429 件
		来所	169 件
	高齢者実態把握訪問（再掲）		242 件
	出前講座		12 回（内介護予防講座 5 回） 643 名（内介護予防講座 201 名）
	出張相談会		7 回 相談 28 名 測定 329 名
	地域ケア会議		3 回
	関係機関との連携	会議出席	24 回
		周知活動	80 回
権利擁護（再掲）	虐待	123 件	
	成年後見	10 件	
	消費者被害	14 件	
包括的・継続的ケアマネジメント	ケアマネジャー研修会	1 回 57 名参加	
	ケアマネ支援事例検討会議	1 回 52 名参加	
	担当者会議出席	6 回	
	ケアマネジャーからの相談など	238 件	
見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	18 回	
	承諾事業所数	15 件	
二次予防事業 ケアマネジメント	訪問・電話	178 件	
	ケアマネジメント	10 名 延 82	
予防給付	包括	給付管理数(延数)	447 件
		実人数	48 名
	委託	給付管理数(延数)	406 件
		実人数	51 名
介護者支援	介護者教室	7 回 214 名	
	介護者サロン支援	11 回	
認知症サポーター養成講座		2 回 38 名	
その他（事業内容もご記入ください）		コバトンお達者倶楽部カード配布 429 枚 交通安全アドバイス 39 回 1224 名	
地域行事などへの協力		16 回 南畑地区社協環境浄化運動、南畑体育祭、グランドゴルフ、南畑公民館利用者の会、南畑敬老会、南畑第 5 町会との合同防災訓練、古老の話を聞く会等	

配食サービス

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 在宅生活を支える事業としての構築</p>	<p>① モニタリングの訪問時や介護サービス利用時など、栄養面での不安や買い物や調理が困難（なりうる）な条件が複数みられる場合に積極的に配食事業を紹介しました。その結果、新規利用につながるケースも増え、25年度に比べて実績を増やすことができました。</p> <p>② 利用者やその家族から、食事について「美味しい」「やわらかくて食べやすい」等の意見を多くいただきました。中には、歯科治療中で堅いものが食べられない間配食サービスを利用する方もいるなど、生活環境や身体状況において上手に利用してもらうことができました。</p>
<p>(2) 地域社会への配食事業の宣伝・広告</p>	<p>① 富士見市 5 圏域のうち今年度から開設した地域包括支援センターを中心にパンフレットを配布しました。しかし、反響はありませんでした。</p> <p>② 公民館・社協等にパンフレットを配布し事業周知に努めました。</p> <p>③ デイや訪問介護の実績配布時やその他の事業所訪問時等にパンフレットの配布と説明を合わせて行ってもらうように協力依頼しました。</p>

地域支援課

総合目標及び課題

- ・小規模多機能事業の拡大
- ・ユニットケアの推進
- ・新事業の立ち上げと地域から信頼される拠点作り

小規模多機能型居宅介護

重点目標及び課題	成果等																								
(1) 稼働率の維持・向上のための取り組み	① 定員 18 名の中で年間稼働率 96.3% (1 月末時点) を維持し、目標を達成することができました。要因としては、終了者が出た後、比較的に早期に新規受け入れができたことが大きいと考えられます。年間終了者 5 名、新規利用者 10 名でした。																								
(2) 事業運営における利用者獲得の取り組み	① 法人で発行している「むさしの便り (空き情報)」へ小規模多機能の情報を載せ、周知活動を行いました。 ② 登録者の空きが出た際もすぐに次の利用者が決まり、定員の上限に達している期間が長かったため、新規獲得のために行動する機会が少なくすみしました。																								
(3) 余暇活動のプログラム化	① 急遽の訪問や通いの送迎時間の変更等の理由により、余暇活動の時間を作れないことが多くありました。突発的なことが発生せず、人数が十分確保できている日については余暇活動が行え、今後は短時間で取り組みが課題として残りました。 ② 必要物品の購入やマニュアル作成には至りませんでした。																								
(4) 年間計画の作成と外出への取り組み	① <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>花見</td> <td>4月5日 (土)</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>端午の節句</td> <td>5月5日 (月)</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>ひだまりホームパーティー (家族参加)</td> <td>6月7日 (土)</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>七夕</td> <td>7月7日 (月)</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>梨狩り・外食行事</td> <td>8月28日 (木) 8月29日 (金)</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>星空シアター</td> <td>9月6日 (土)</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>日帰り旅行</td> <td>10月9日 (木) 10月10日 (金)</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	内容	実施日	4月	花見	4月5日 (土)	5月	端午の節句	5月5日 (月)	6月	ひだまりホームパーティー (家族参加)	6月7日 (土)	7月	七夕	7月7日 (月)	8月	梨狩り・外食行事	8月28日 (木) 8月29日 (金)	9月	星空シアター	9月6日 (土)	10月	日帰り旅行	10月9日 (木) 10月10日 (金)
実施月	内容	実施日																							
4月	花見	4月5日 (土)																							
5月	端午の節句	5月5日 (月)																							
6月	ひだまりホームパーティー (家族参加)	6月7日 (土)																							
7月	七夕	7月7日 (月)																							
8月	梨狩り・外食行事	8月28日 (木) 8月29日 (金)																							
9月	星空シアター	9月6日 (土)																							
10月	日帰り旅行	10月9日 (木) 10月10日 (金)																							

	10月	開設記念日	10月1日(水)
	11月	紅葉狩り	11月27日(木) 11月28日(金)
	12月	冬至	12月第4週
	12月	餅つき(家族参加)	12月13日(土)
	1月	クリスマス	12月25日(木)
		新年会(家族参加)	1月11日(日)
	2月	節分	2月3日(火)
3月	雛祭り	3月3日(火)	
(5) 訪問マニュアルの作成	<p>② 行事の担当を決めることで、各担当が企画段階から責任を持って実施することができました。年間を通して計画性のある取り組みができました。</p> <p>① 訪問マニュアルの作成はできていません。利用者によっては一人につき訪問内容が複数に及ぶ場合もあるため、重要なポイントを記した見やすいマニュアルの作成が今後の課題となりました。</p>		
(6) 小規模多機能の機能の理解	<p>① 事業所の全職員に対し、小規模多機能の事業についての理解を深めるための内部研修を行いました。それにより、この事業の持つ役割や期待されることを職員全体で学ぶ機会が得られました。今回は導入部分であったため、次回はさらに掘り下げた内容の研修を行うとともに、新しく入職した職員に対しては、都度研修を行います。</p>		

地域密着型特別養護老人ホーム

介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持・向上のための取り組み	① 稼働率の維持の為、健康管理に重点おきました。日頃から手指消毒や換気などを実施し、感染症予防に努めました。それにより感染症が蔓延するのを防ぐことができました。転倒による骨折が原因での長期入院がありました。その為、事故防止への取り組みが今後の課題として残りました。
(2) ユニットケアへの理解を深める	① 各リーダーが担当し、排泄→入浴→食事の順でユニットケア研修を行う年間計画でしたが、排泄介助についてのみ実施することができました。新入職員に対しては、ユニットケア導入部分を実施しましたが、下半期入職者に対しては、実施できていません。職員全体でのユニッ

<p>(3) ユニットケアの体制作り</p>	<p>トケアとは何か、共通理解を進めることが課題として残りました。</p> <p>① 8時間夜勤の導入には至らず、16時間夜勤を継続しているため次年度への課題となりました。</p> <p>② 検討会を重ね、24Hシートの書式や記入内容についての意見交換を行いました。各リーダーの試行的な24Hシート作成に留まり、使用できる状態の24Hシート作成には至りませんでした。</p>																		
<p>(4) 食事レクリエーションの実施</p>	<p>① サービス向上委員会としておやつクラブを発足しました。大きな催しがある月を除き、計7回手作りおやつを提供することができました。</p> <p>② ユニットごとにユニット行事の起案・実施を行いました。各ユニットともに計3回、入居者と一緒に準備や調理工程を行い、食事・おやつレクリエーションを提供することができました。</p>																		
<p>(5) 余暇活動の充実</p>	<p>① 職員が講師となり、クラブ活動を実施することができました。書道クラブ計3回、アレンジメントクラブ計2回、カラオケクラブ計2回実施しました。不定期であったので、実施月を固定し、定期的に参加を呼びかけていけるようにすることが今後の課題として残りました。</p>																		
<p>(6) 職員間での連携</p>	<p>① 朝礼・夕礼での申し送りや引継ぎノートを活用し、情報共有を図りました。しかし、個人の業務を行うことに集中し、お互いの業務にまで気が回らないことが多く、連携体制の定着には至りませんでした。</p> <p>② 職員のユニット固定配置ができず、まだまだ自分のユニット意識が薄く同じユニットでの伝達できていない現状です。</p>																		
<p>(7) 年間の催し</p>	<p>年間のイベント</p> <table border="1" data-bbox="568 1435 1430 2024"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>花見</td> <td>4月3日(月) 4月4日(火) 4月7日(金)</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>端午の節句</td> <td>5月5日(月)</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>ひだまりホームパーティー(家族参加)</td> <td>6月7日(土)</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>夏祭り(各地区) 七夕</td> <td>7月~8月 7月7日(月)</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>花火 流しそうめん</td> <td>8月6日(水) 8月11日(月) 8月27日(水)</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	内容	実施日	4月	花見	4月3日(月) 4月4日(火) 4月7日(金)	5月	端午の節句	5月5日(月)	6月	ひだまりホームパーティー(家族参加)	6月7日(土)	7月	夏祭り(各地区) 七夕	7月~8月 7月7日(月)	8月	花火 流しそうめん	8月6日(水) 8月11日(月) 8月27日(水)
実施月	内容	実施日																	
4月	花見	4月3日(月) 4月4日(火) 4月7日(金)																	
5月	端午の節句	5月5日(月)																	
6月	ひだまりホームパーティー(家族参加)	6月7日(土)																	
7月	夏祭り(各地区) 七夕	7月~8月 7月7日(月)																	
8月	花火 流しそうめん	8月6日(水) 8月11日(月) 8月27日(水)																	

		8月29日(金) 8月30日(土)
9月	敬老会(各地区)	
10月	敬老会(各地区) 開設記念日	10月1日(水)
12月	冬至 餅つき(家族参加) クリスマス	12月第4週 12月13日(土) 12月25日(木)
1月	新年会(家族参加)	1月11日(日)
2月	節分	2月3日(火)
3月	雛祭り	3月3日(火)

ユニットのイベント

ユニット	内容	実施日
ひまわり	フルーツバイキング	5月31日(土)
	かき氷	6月26日(木)
	うなぎの出前	8月21日(木)
こすもす	天ぷら	4月3日(月)
	カレー作り	7月29日(火)
	鍋行事	12月15日(火)
すいせん	コロッケ	5月15日(木)
	サラダそうめん	7月30日(水)
	きりたんぼ鍋	2月24日(火)

クラブ活動

おやつクラブ	4・5・6・7・9・ 10・2月	計7回
書道クラブ	10・11・12月	計3回
アレンジメントクラ ブ	10・12月	計2回

看護

重点目標及び課題	成果等
(1) 外部研修参加による情報収集	① 褥瘡予防、おむつ内環境改善の外部研修に参加しました。救命士による救命講習に参加しました。
(2) 看護問題の明確	① 報告・連絡・相談を習慣かさせる事で入居者の健康状態や異常の早期

化と連携	発見すみやかな対応が出来ました。
(3) 医務研修の継続	① 入職した職員に対し、その都度医務研修を実施しました。 ② 医務研修では項目ごとに関連資料、手技などの資料を用意し、医務研修の内容を充実させることができました。

相談

重点目標及び課題																																																	
(1) 稼働率を意識した入所調整	<p>① 特養の年間稼働率は96.9%で目標を下回りました。理由として長期入院者、退居者が多かったことが考えられます（退居者数は6名、年度内の入院者は延べ14名で入院者による空床期間は274日。退居者による空床期間は45日）。入院者に対しては今まで同様に病院への面会や家族へ連絡し、状況把握に努めました。入院者が居た場合の空床利用の活用、退居から入居までのスムーズな入居案内をどうしていくのかが課題として残りました。3月に空床利用（5日間）が1名あり、空床利用として成果を残す事ができました。</p> <p>② 入所判定会議を毎月開催し入所順位をご家族へ通知するルーチンワークは1年通して開催できました。入院者の対応は病院に面会に行くなど、積極的に情報収集を取るようになりました。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>退居者</th> <th>退居年月日</th> <th>理由</th> <th>入居者</th> <th>入居年月日</th> <th>空床期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>H26.6.19</td> <td>死亡</td> <td>1</td> <td>H26.6.26</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>H26.8.13</td> <td>長期入院</td> <td>2</td> <td>H26.8.15</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>H26.11.4</td> <td>長期入院</td> <td>3</td> <td>H26.11.5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>H26.11.18</td> <td>永眠</td> <td>4</td> <td>H26.12.1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>H26.12.9</td> <td>永眠</td> <td>5</td> <td>H26.12.25</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>H27.1.8</td> <td>永眠（看取り）</td> <td>6</td> <td>H27.1.20</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td colspan="2">退居者総数6名</td> <td colspan="2">入居者総数6名</td> <td colspan="2">空床期間 45日間</td> </tr> </tbody> </table>	退居者	退居年月日	理由	入居者	入居年月日	空床期間	1	H26.6.19	死亡	1	H26.6.26	6	2	H26.8.13	長期入院	2	H26.8.15	1	3	H26.11.4	長期入院	3	H26.11.5	0	4	H26.11.18	永眠	4	H26.12.1	12	5	H26.12.9	永眠	5	H26.12.25	15	6	H27.1.8	永眠（看取り）	6	H27.1.20	11	退居者総数6名		入居者総数6名		空床期間 45日間	
退居者	退居年月日	理由	入居者	入居年月日	空床期間																																												
1	H26.6.19	死亡	1	H26.6.26	6																																												
2	H26.8.13	長期入院	2	H26.8.15	1																																												
3	H26.11.4	長期入院	3	H26.11.5	0																																												
4	H26.11.18	永眠	4	H26.12.1	12																																												
5	H26.12.9	永眠	5	H26.12.25	15																																												
6	H27.1.8	永眠（看取り）	6	H27.1.20	11																																												
退居者総数6名		入居者総数6名		空床期間 45日間																																													
(2) 地域交流を意識した近隣との関わり	<p>① 7～9月に地区夏祭り、9～10月に地区敬老会に入居者・家族と一緒に参加。夏祭りは6か所で入居者22名、家族14名、ボランティア3名（外出時、付き添い）が参加、敬老会は8か所で入居者14名、家族8名が参加しました。参加や調整時に町内会長や民生委員と連絡を取りながら交流を深める事が出来ました。また、11月29日（土）に施設で地域防災訓練（水谷第一町会と合同）を実施し、当</p>																																																

(3) 苦情解決への取り組み	<p>日は地域住民 17 名の方に参加いただきました。職員と一緒に入居者を施設から駐車場まで避難したり、災害について意見交換をしたり、交流を図りました。</p> <p>② 定期ボランティアは継続出来るように調整を行うとともに新規ボランティア 1 団体の受入を行いました。</p> <p><平成 26 年度ボランティア活動 回数・延べ人数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラブ名</th> <th>活動回数(回)</th> <th>延べ人数(名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活支援 島貴氏</td> <td>43 回</td> <td>43 名</td> </tr> <tr> <td>邑水会(民謡)</td> <td>8 回</td> <td>39 名</td> </tr> <tr> <td>お茶クラブ</td> <td>4 回</td> <td>19 名</td> </tr> <tr> <td>ひまわり(フラダンス)</td> <td>3 回</td> <td>23 名</td> </tr> <tr> <td>うづき会(民謡)</td> <td>2 回</td> <td>22 名</td> </tr> <tr> <td>かっぱれ(民謡)</td> <td>6 回</td> <td>38 名</td> </tr> <tr> <td>花クラブ</td> <td>1 回</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>傾聴ボランティア</td> <td>38 回</td> <td>55 名</td> </tr> <tr> <td>外出付き添い</td> <td>2 回</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>生活支援 黒田氏</td> <td>45 回</td> <td>45 名</td> </tr> <tr> <td>ハーモニカクラブ</td> <td>3 回</td> <td>33 名</td> </tr> <tr> <td>富士政会※新規</td> <td>2 回</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>157 回</td> <td>326 名</td> </tr> </tbody> </table>	クラブ名	活動回数(回)	延べ人数(名)	生活支援 島貴氏	43 回	43 名	邑水会(民謡)	8 回	39 名	お茶クラブ	4 回	19 名	ひまわり(フラダンス)	3 回	23 名	うづき会(民謡)	2 回	22 名	かっぱれ(民謡)	6 回	38 名	花クラブ	1 回	2 名	傾聴ボランティア	38 回	55 名	外出付き添い	2 回	3 名	生活支援 黒田氏	45 回	45 名	ハーモニカクラブ	3 回	33 名	富士政会※新規	2 回	4 名	合計	157 回	326 名
	クラブ名	活動回数(回)	延べ人数(名)																																								
	生活支援 島貴氏	43 回	43 名																																								
	邑水会(民謡)	8 回	39 名																																								
	お茶クラブ	4 回	19 名																																								
	ひまわり(フラダンス)	3 回	23 名																																								
	うづき会(民謡)	2 回	22 名																																								
	かっぱれ(民謡)	6 回	38 名																																								
	花クラブ	1 回	2 名																																								
	傾聴ボランティア	38 回	55 名																																								
	外出付き添い	2 回	3 名																																								
	生活支援 黒田氏	45 回	45 名																																								
	ハーモニカクラブ	3 回	33 名																																								
	富士政会※新規	2 回	4 名																																								
	合計	157 回	326 名																																								
<p>① ご家族の面会時には積極的に近況報告し、コミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるよう取り組みました。要望については出来るだけ、速やかに対応するように意識して行いました。</p> <p>② 年度内に苦情(希望)は 2 件ありました。1 件は入居者処遇についての内容だった為、直接関わった職員への確認・指導を行いました。1 件は施設の体制についての不満で家族への聞き取りや内容を職員周知する事で対応しました。苦情内容は職員で再発防止が出来るように会議等で職員へ周知徹底を図りました。</p>																																											

リハビリ

重点目標及び課題	成果等
(1) チームケアの質の向上	① 個々の動作の観察が継続して行えなかったため、必要な介助を明確にすることができませんでした。そのため、多職種との検討も行えませんでした。また、職員の動作を見ることができなかつたため、職員の動作介助の練習はできませんでした。

(2) 継続したリハビリの実施	① 計画していた器具の購入がなかったため、器具を使用しての日課として行えるプログラムの作成、実施は行えていません、数名の利用者については、歩行練習等で他職種の協力を得て継続できました。
-----------------	--

委員会

サービス向上委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) リフト浴の研修	① 内部研修でリフト浴の研修を行いました。 今年度、入浴マニュアルの見直しが出来なかったため来年度はマニュアルを見直していくことが課題として残りました。
(2) 会議での決定事項の周知	① 会議での決定事項（例えば洗濯物の選別など）が一部職員に周知されていませんでした。
(3) 本人持ちの食品の管理	① 食品には名前を記入し適切な場所に保管、管理し賞味期限内に提供を行いました。
(4) 食事提供の質の向上	① 食事提供時の質の向上は計画途中のため行う事ができませんでした。 ② 職員対象の食事研修はアンケートも取れず行えませんでした。 来年度は時間を取り栄養課と研修を行っていくことが課題として残りました。

衛生委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 感染症発生時の対処マニュアル作成	① マニュアル作成は本体施設のマニュアルを使用しました。そのマニュアルに外部研修で知り得た知識を付け足して、職員全員に内部研修を行いました。
(2) 褥瘡予防	① 排泄時・入浴時に必ずボディチェックと夜間体位交換、軟膏塗布と予防を職員全員が行えました。医務では褥瘡軽度の入居者に対し写真に残して経過観察を行い状態把握に努めました。 ② 褥瘡の写真や発生原因等が書かれた紙を連絡事項としてか活用しましたが、研修はできませんでした。
(3) 医務との連携	① 感染症対策では意見交換や医務の見地から必要な物品を揃え、褥瘡に関しては経過観察を行うなど、分担しながら協力して行いました。

事故発生予防委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 事故によるアザやケガの箇所の把握	① 人体図がついたアザやケガの確認表を作成し、2階ステーションでバインダー管理することで、介護職員・看護師間で確認・周知することができました。アザやケガの早期発見には観察する習慣を全職員が身に付けることが重要であるため、介護職員が報告を確認する機会を得られるよう、これからも活用していきます。
(2) ヒヤリハット報告の情報の共有	① ヒヤリハットの確認方法がPC閲覧のため、PC操作を苦手とする介護職員にとっては閲覧が進まないという問題があった為、ヒヤリハットを集計しまとめた紙ベースを作成し、確認できるようにしました。また、2階ステーション内にも前月のヒヤリハット合計を出し、多かった事故に対して注意を喚起するようにしました。ヒヤリハットの周知では、転倒やベッドから滑落しやすい入居者の周知中心に行うことができました。

整容委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 車椅子の清掃	① 車椅子清掃においては2ヶ月に一回程度しかできませんでした。 ② 行事等の前にしか掃除していない為、定期的に掃除という事が出来ませんでした。今後は定期的に行うことで清潔が保てるので2か月に一回居室担当者が行うことが課題となります。
(2) リネン庫の清掃、物品発注	① リネン庫の掃除に関しては整容委員が分担し行いました。 ② 物品発注に関してはノートを作成することで不足を事前に防ぐ事が出来ました。
(3) リネン伝票の周知	① ベットマット、枕交換の周知に関して交換は1週間の間に行いましたが、先週交換した日より数日しか経過していない日に交換していたことが見られました。
(4) 居室の清潔保持	① 1週間に1回は居室の清掃を行っていますが衣類の整頓などが出来てないことがありました。リネン交換した際は掃除機をかけていなかったこともありました。

排泄委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) パットの必要性・当て方の再確認	<p>① パットの必要性に関しては、年2回の尿側にて個々の排泄パターンやアイテムを知る事が出来ましたが、アイテムを変えた後、見直しが不十分なところがありました。</p> <p>② パットの当て方の再確認では、業者アドバイザーと連携を取り委員会時に学ぶことができましたが、定期的な排泄ケア研修の実施、職員への周知が不足ありました。ひだまりの庭での排泄ケアの統一・周知していくことが課題として残りました。</p>
(2) オムツ・パット類の在庫確認・整理整頓	<p>① オムツ・パット類の整理整頓はこまめにパットの個数を確認し、行う事が出来ました。発注に関しては、発注時の在庫数を在庫管理表で活用しましたが、不足してしまう事がありました。今後、1日に使用するパットを居室に補充し在庫数だけで在庫管理が出来るようにしていくと共にパットの使用方法の周知を研修の中で周知していくことが課題となりました。</p>
(3) ひだまりの庭での排泄ケアの統一・周知	<p>① 定期的な内部研修を実施し排泄ケアの統一・周知に努めましたが、まだ研修不足な点もあり、統一が出来てない部分が目立ちました。</p> <p>② ユニットケアにおける排泄の考え方について研修を全職員に実施することができました。</p>

地域包括支援センター

重点目標及び課題	成果等
(1) 初年度の運営について	<p>① 他圏域に比べ高齢者人口が多く、市内でも高齢化率の高い地域である上に、地域性もあり複雑多様な相談が多く寄せられました。しかし4月当初から職員体制が崩れ、その後も医療専門職の入退職が続いたため、ほぼ2人の職員で業務を担うことになりました。3人の専門職でのチームアプローチの実践はできない状況でしたが、それでも地域の信頼関係を築くことや、地域の高齢者に対し安心して相談できる拠点という役割を果たすために活動を行いました。</p>
(2) 総合相談・支援事業	<p>① 相談内容は困難ケースが多く、対応に時間を費やし苦慮しましたが、民生委員や関係機関との連携は、相談があるたびに次第に深まり関係づくりができました。年間2,475件（延べ対応 2,871件）という結果は、不十分な体制の中において大きな実績を残すことができました。高齢者実態把握は積極的に地域訪問するゆとりなく、347件は相談から発生した数となりました。</p>

	<p>② 認知症サポーター講座や高齢者見守りネットワークの拡大、圏域内の高齢者の実態把握には思うように取り組めませんでした。地域の要請に応じて随時実施した出前講座や介護予防講座では、認知症についての普及・啓発を実施できました。また独自に、地域の人々がふれ合う機会や場づくりのため「わいわい熟」を年度内4回実施しました。次第に参加者も定着し、参加者から毎月実施の希望が出ています。</p> <p>③ 出前講座は介護予防講座として、認知症予防や権利擁護に関する内容を中心に、周知や啓発も併せて行いました。</p>
<p>(3) 介護予防事業対象者に対する介護予防マネジメント</p>	<p>① 要支援者でもその実態は要介護者状態で、支援密度が高い利用者が増えているため、高齢者あんしん相談センターでプラン作成を担っていくことが次第に難しくなり、居宅介護支援事業所へ委託することも多くありました。前担当のふじみ苑より引き継いだプラン数51件を、年度末には78件に増やすことができました</p> <p>② 二次予防事業の参加希望者を増進センターの教室などへ適切につなぐよう努め、12名の高齢者を紹介しマネジメントを実施しました。地域資源を増やし充実させていくことが必要です。</p>
<p>(4) 権利擁護業務</p>	<p>① 権利擁護の相談については、地域特性なのか、精神を病んだ40代から50代の子供との同居生活、互いに依存的に生活しているという特徴が目立ち、担当CMや市関係者とのコア会議は多数行われました。総合相談の中には、土地問題や過去の人間関係を含んだ近隣トラブルに関する相談も多く、権利擁護に関わる内容を潜ませているケースが多くありました。中には高齢者あんしん相談センターだけでは解決できない困難な内容もあり、市担当者や関係機関と連携して支援することができました。</p>
<p>(5) 包括的・継続的マネジメント事業</p>	<p>① ケアマネからの相談対応は延べ212件となります。特に一人ケアマネからの相談が目立ちました。要介護者の担当者会議は要請あり9回出席しました。ケースの斡旋、紹介は、162件（内支援センターひだまりの庭むさしのへ61件、小規模多機能居宅介護へ5件）実施しました。</p>

平成 26 年度 地域包括支援センターひだまりの庭むさしの活動実績一覧表

総合相談支援	総合相談	訪問	733件
		電話	1553件
		来所	189件
	高齢者実態把握訪問（再掲）		347名（再掲なし）
	出前講座		7回 受講延数 207名
	出張相談会		3日 相談延数 112名
	地域ケア会議		3回
	関係機関との連携	会議出席	28回 他包括会議12回
		周知活動	30回
権利擁護（再掲）	虐待	64（延べ対応）	
	成年後見	1	
	消費者被害	0	
包括的・継続的ケアマネジメント	ケアマネジャー研修会	1回 主催	
	ケアマネ支援事例検討会議	1回 主催	
	担当者会議出席	9件	
	ケアマネジャーからの相談など	212件	
見守りネットワーク普及活動	訪問活動件数	6件（地区内の薬局）	
	承諾事業所数	2件	
二次予防事業 ケアマネジメント	訪問・電話	124回	
	ケアマネジメント	12名（実人数） 19名（延数）	
予防給付	包括	給付管理数(延数)	436名
		実人数	60名
	委託	給付管理数(延数)	324名
		実人数	47名
介護者支援	介護者教室	2回 受講延数61名	
	介護者サロン支援	12回（つばやきカフェでの相談や助言実施）	
認知症サポーター養成講座		0	
その他の事業内容		4回 延数45名（わいわい熟）	
地域行事などへの協力		水谷地区地域防災訓練、水谷公民館文化祭 ふれあいサロンミニサミット	

居宅介護支援事業

重点目標及び課題	成果等
(1) ケアマネジメント業務	<p>① ひだまり包括よりコンスタントに新規依頼があり、稼働率についてはほぼ計画通りの右肩上がりでしたが、他事業所への業務支援を行い、新規契約を調整する時期がありました。1月に職員の入退職があり、常勤換算1.0の上限数（給付管理数39）で調整する事になり、その後、新任職員と2名体制で年度末にかけて新規利用者の受け入れを積極的に行うも、稼働率は62.8%。目標稼働率の88%には届きませんでした。</p> <p>② 支援会議では困難事例を中心に話し合い、多角的な視点でプランを検討しました。</p> <p>③ 新規利用者については、基本的に包括職員と居宅職員の2名体制で訪問しながら課題分析を実施しました。</p> <p>④ 法令遵守については厚労省のホームページ等で調べられる範囲で確認し、帳票類も整備されているものと考えています。</p> <p>⑤ プランの中身については家族の意向が色濃く反映されたものになっているのが多く、利用者本位とはなっていないのが今後の課題として残りました。</p>
(2) 事業所内の連携	<p>① 担当外の緊急SS利用の依頼が家族からあり、その対応は結果として出来ましたが、具体的な取り決めをしていなかった事が原因で、十分な連携が取れなかったことが反省点として残りました。</p> <p>② 情報共有については各担当の新規・休止・入院の状況をホワイトボードにて周知しました。また、月1回開催する支援会議で困難ケースについて話合う機会を設けました。</p>
(3) 相談・苦情の援助体制	<p>① 苦情に対しては公正中立で迅速かつ適切な対応を心掛けました。その内容については基本的に課長へ報告、相談を随時行っていますが、ケースによっては包括にも報告しました。</p> <p>② 記録は不満受付簿や支援経過記録に記載を行いました。</p>
(4) 従業員の育成	<p>① 新任者向け基礎研修は簡易的な計画をたてていたが、実施できませんでした。</p> <p>② 県や市、その他からの外部研修は、職員1人年2回以上受講しました。</p> <p>③ 業務上必要とする情報収集として、各自が参考書籍の購入やインターネットの閲覧等を実施しました。</p>

栄養課

総合目標及び課題

- ・利用者本位の食事の提供
- ・豊かで笑顔あふれる食生活の提供

重点目標及び課題	成果等
(1) ソフト食メニュー拡充	<p>① 凍結含浸法を用いたソフト食の提供を行いました。 26年度は新たにブロッコリー、カリフラワーのソフト食に挑戦しましたが管理不十分により軟化の度合いにばらつきが出てしまい従来通りのペースト状での提供になってしまいました。27年度は良い状態の料理を提供することができるよう品質管理を徹底します。</p>
(2) 品質の向上	<p>① 調理員の調理レシピに対する認識の甘さや指示量の確認や計量等の実行不足により品質（料理の質）を向上することはできませんでした。27年度は調理マニュアルを十分に確認する習慣を身に付けるよう努めます。</p>
(3) 季節行事食とお楽しみメニューの充実	<p>① 季節の行事食については次の通り実施しました。 5月：端午の節句 6月：鮎炭火焼き 7月：七夕、納涼祭 9月：敬老会 10月：さんま炭火焼き 11月：鍋行事 12月：もちつき、クリスマス 1月：正月、新年会 2月：節分行事 3月：ひな祭り</p> <p>② その他のお楽しみメニュー等については次の通り実施しました。 4月：春のちらし寿司 5月：釜飯行事 6月：寿司の日 8月：助六弁当 9月：寿司の日 10月：寿司の日 11月：のり弁</p>

<p>(4) 栄養ケア・個別対応の実施</p>	<p>12月：寿司の日 2月：寿司の日 3月：寿司の日</p> <p>① 本体施設においては計画通り進めました。ひだまりの庭においては実施時期が予定通りにならないことがありました。利用者の状態変化に合わせて随時、対応を行いました。</p>
<p>(5) 多食種共同で食を通じた楽しみの提供</p>	<p>① 年間数回でしたが、草餅作り、おはぎ作り、肉まん作りを利用者職員一緒に楽しみました。</p> <p>② 喫茶室を隔週で月2回、自販機前で開催し、相談員、看護師、介護職員に協力を仰ぎ、利用者楽しんでもらいました。</p>